

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：34301

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2011

課題番号：21242022

研究課題名（和文） 世界遺産エルデニゾー僧院に関する総合的研究—過去の復元から未来への保存へ—

研究課題名（英文） The Comprehensive Research on the Monastery Erdene-Zuu, UNESCO's World Cultural Heritage Site: From the Restoration of the Past to the Preservation for the Future.

研究代表者

松川 節 (MATSUKAWA TAKASHI)

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：60321064

研究成果の概要（和文）：モンゴル国に現存する世界文化遺産エルデニゾー僧院の保存・保護に向けて、基礎研究と現地における本調査を行った結果、①エルデニゾー僧院およびモンゴル帝国の首都カラコルムの歴史を解明する新たな文字資料 2 点を発見、②エルデニゾー立地点における 8 世紀～20 世紀までの考古学的文化層について基礎データを収集、③モンゴル国政府に向けて、エルデニゾー寺院の研究と保存保護に関する 6 項目からなる「提言書」を提出などの成果を得た。

研究成果の概要（英文）：

A joint Japanese-Mongolian project has been comprehensively surveying and researching the Monastery Erdene-Zuu, UNESCO's World cultural heritage site, from the restration of the past to the preservation for the future. As a result, 1) we discovered one inscription of the 14th century and one ink-wrinting of the 16th century, 2) we found a 1 meter deep garbage hole in the south west part of the monastery, and also found multi-sutatum from 8th to 20th centuries.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	8,800,000	2,640,000	11,440,000
2010年度	7,700,000	2,310,000	10,010,000
2011年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
年度			
年度			
総計	24,900,000	7,470,000	32,370,000

研究分野：モンゴル史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：(1)国際研究者交流 (2)内陸アジア史 (3)モンゴル (4)考古学

(5)仏教学 (6)ユネスコ世界文化遺産 (7)保存科学 (8)文化人類学

1. 研究開始当初の背景

エルデニゾー僧院の外壁下にモンゴル帝国・元朝期の城壁が見つかっており、今のエルデニゾー僧院は、カラコルムにあったなんらかの宮殿の跡に建造されたことが確実に

なっている。しかし本格的な発掘は未だなされていない。一帯には、突厥、ウイグル、モンゴル帝国時代の諸城址があり、それらが一括してユネスコの世界文化遺産に登録されたため、トルコ（突厥時代の遺跡）、ドイツ

(ウイグル時代及びモンゴル帝国時代の遺跡)、中国(ウイグル時代の墳墓)などが国家プロジェクトのレベルで考古学的発掘を行っている。しかし、エルデニゾー僧院は現在も活動中の宗教施設であるため、大規模な発掘プロジェクトの対象とされず、基礎的研究もなされていなかった。

2. 研究の目的

歴史遺産としてのエルデニゾー僧院の保存・保護に向けて、〈過去の復元〉、〈現在の利用〉、〈未来への保存〉という3つの観点から、歴史学研究者をはじめとする各分野の専門研究者が学際的共同研究を行い、研究の基盤を整備し、その文化的価値を世界に知らしめる。

3. 研究の方法

エルデニゾー僧院の過去について総合的な学術的基盤をまず形成し(過去の歴史的復元)、それを未来へうまく残すために(未来への保存)、現在の利用状況を点検する(現在の利用)。毎年度、3回の国内研究会(うち1回はモンゴルから研究者招聘)とモンゴルにおける調査を行い、最終年度の平成23年度はモンゴルにおける国際シンポジウムの開催とその成果刊行(論文集一冊と、一般向けモンゴル語・英語によるもの一冊)をそれぞれ行う。

4. 研究成果

初年度(2009年度)は「過去の復元」において著しい成果を挙げることができた。2009年9月、現地調査にて、エルデニゾー僧院およびモンゴル帝国の首都カラコルムの歴史を解明する新たな文字資料2点を発見した。1点は1347年にカラコルムで建碑された漢文・モンゴル文による「勅賜興元閣碑」の一断片で、カラコルムに仏教寺院「興元閣」が建てられたことを証明する重要な史料である。もう1点はエルデニゾー内にある「ゴルバンゾー」寺の主殿の棟木に書かれた漢文とモンゴル文による墨書で、エルデニゾーの建立が明の万暦14年イヌの年、すなわち1586年に開始され、翌年竣工したことを示す生の史料である。

2010年度の現地本調査は、1)アルタン・ソボラガ仏塔の2面の摩耗碑文(モンゴル語・チベット語)のレーザー光による解読 2)エルデニゾー内のゴルバンゾー寺の保存修復状況の調査と提言 3)ゴルバンゾー寺の計測と、その起源をめぐる建築史的研究 4)ゴルバンゾー内のガンザイ壁画の模写作成と研究 5)エルデニゾー院内の考古学的発掘調査による成立過程の研究、以上の項目について行われた結果、1)については16世紀末に建立されたこの寺院が18世紀にい

かに発展していたかが解明されること、2)本寺院は2004年に世界遺産に指定された後、現在に至るまでの保護・保存において問題が検出されていること、3)従来、エルデニゾー僧院は内モンゴルの寺院をモデルに設計されたと考えられていたが、今回の比較研究により、そうではないことが判明したこと、4)守護神に供物を捧げる様を描いた仏教的ガンザイ壁画をチベットのものと比較することにより、モンゴルの要素を抽出できると判明したこと、5)エルデニゾー立地点における8世紀~20世紀までの考古学的文化層について基礎データを収集したこと。以上の成果を得た。

2011年度の現地本調査は、6)ゴルバンゾー内のガンザイ壁画の年代比定 7)ゴルバンゾー寺およびの計測と、その起源をめぐる建築史的研究 8)エルデニゾー博物館収蔵遺物のデジタル・アーカイブ化の研究、以上の項目について行われた結果、6)についてはC14分析により、19世紀中葉成立との結果を得、7)14世紀に大都(現在の北京)に建立された寺院との類似性を有すること、8)エルデニゾー博物館に所蔵されるチベット語文献は、現地だけでなく、モンゴル各地から将来されたものであること、以上の成果を得た。また、9月17・18日の二日間、日本の無償援助によってハラホリンに建造され、2011年6月に開館したばかりの「カラコルム博物館」会議室で国際学術会議「エルデニゾー—過去・現在・未来—」が、国際交流基金知的交流会議助成を得て開催され、2本の基調講演と15本の報告が行なわれ、最後に、モンゴル国政府に向けて、エルデニゾー寺院の研究と保存保護に関する6項目からなる「提言書」が全会一致で採択された。英文による会議の報告論文集(*The International Conference on "Erdene Zuu: Past, Present and Future,"* September 2011, Ulaanbaatar, 200pp.)が国際会議日程に合わせて刊行され、さらに、そのモンゴル語版が学術雑誌 *Орхонь хөндийн өв* (『オルホン渓谷遺産』)の創刊号に収録され、2012年3月に刊行された。また、モンゴル語で出版されている基礎的研究書であるハタンバートル・ナイガル(共著)『エルデニゾー史』の日本語訳を刊行した。

以上の研究成果の達成度は、研究目的のうち〈過去の復元〉については、エルデニゾー立地点における8世紀~20世紀までの考古学的文化層について基礎データを収集でき、〈現在の利用状況の確認〉については聞き取り調査の蓄積と、観光資源としての位置づけを明らかにすることができ、〈未来への保存方法の検討〉については、現況と問題点・課題を明らかにした上で、モンゴル国政府に向けて、エルデニゾー寺院の研究と保存保護に関する6項目からなる「提言書」を提出する

ことができたため、当初の計画以上に進展していると言える。また、今後の展望としては、本研究課題は、ユネスコの世界文化遺産に登録されている当該地域において、遺跡の保存保護に関する実効的提案を含んだ地域密着型の現地調査を展開し、現地で国際会議を開催し、その成果を英語だけでなくモンゴル語でも刊行することにより研究成果の地域還元をはかることができたため、その学術的貢献及び地域貢献の点でモンゴル側より高く評価され、その継続を強く要請されている。それゆえ、今後、第2段階として、新たに判明した当該地域の8世紀～現在までの重層的文化層のうち、新出土遺物が豊富であり、かつ代表者が専門とする13～17世紀の文化層に焦点を絞り、新発見仏教遺物と文献記述との整合性の探求という歴史学的研究基軸を打ち立て、今までの研究を中断なく継続・発展させることにより、新たな北アジア仏教史、ひいては13～17世紀の北アジア史の再構築を目指す。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計15件)

①Takashi MATSUKAWA “Historical Aspects of Mongolian Buddhism: The Erdene Zuu Monastery.” *The International Conference on “Erdene-Zuu: Past, Present and Future”*, 2011, Ulaanbaatar, pp. 27-34. (査読：無)

②Noriyuki SHIRAISHI “Traces of Life in the Uighur Period found beneath Erdene Zuu Monastery.” *The International Conference on “Erdene-Zuu: Past, Present and Future”*, 2011, Ulaanbaatar, pp. 93-95. (査読：無)

③Shin'ichiro MIYAKE “rTsa ba rTa mgrin (1867-1937) and Erdene-zuu.” *The International Conference on “Erdene-Zuu: Past, Present and Future”*, 2011, Ulaanbaatar, pp. 165-175. (査読：無)

④二木 博史 「エルデニゾー寺院とその周辺—2010年現地調査報告—」『日本とモンゴル』45:1, 2010, pp.46-60. (査読：有)

⑤松川 節 「世界遺産エルデニゾー寺院(モンゴル国)で再発見された漢モ対訳『勅賜興元閣碑』断片」『大谷學報』89:2, 2010, pp.01-18. (査読：有)

⑥松川 節 「世界遺産エルデニゾー寺院(モンゴル国)で新たに確認された2つの文字資料」『日本モンゴル学会紀要』40, 2010, pp.79-80. (査読：無)

[学会発表] (計12件)

①松川 節 「哈喇和林再发现的汉蒙文对译《敕赐兴元阁碑》断片」纪念亦邻真先生逝世

十周年国际蒙古史研讨会, 2009年12月20日, 於：中華人民共和国北京市, 中国人民大学。

②松川 節 「モンゴルの文化遺産に関わる二国間協力の成果と課題」(招待講演) 第4回モンゴル日本文化フォーラム, 2010年3月2日, 於：モンゴル国ウランバートル市。

③松川 節 「モンゴル仏教史におけるエルデニゾー寺院」日本モンゴル学会 2010年度春季大会, 2010年5月15日, 於：桜美林大学。

④Yoko FUTAGAMI “Present issues for the conservation and management of Erdenezuu Monastery.” *The International Conference on “Erdene-Zuu: Past, Present and Future”*, 2011年9月18日, 於：モンゴル国ハラホリン郷, カラコルム博物館。

[図書] (計2件)

①Орхоны хөндийн өв (『オルホン溪谷遺産』) 2012年3月, ウランバートル市。(194pp.)
ハタンバートル・ナイガル (著) 清水奈都紀 (訳) 『エルデネ・ゾー史(16-20世紀)』2012年3月, 京都。(166pp.)

[その他]

ホームページ等

<http://qutug.la.coocan.jp/erdenezuu/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松川 節 (MATSUKAWA TAKASHI)

大谷大学・文学部・教授

研究者番号：60321064

(2) 研究分担者

三宅 伸一郎 (MIYAKE SHINICHIRO)

大谷大学・文学部・講師

研究者番号：00367921

小長谷 有紀 (KONAGAYA YUKI)

国立民族学博物館・教授

研究者番号：30188750

二木 博史 (FUTAKI HIROSHI)

東京外国語大学大学院・

総合国際学研究院・教授

研究者番号：90219072

井上 治 (INOUE OSAMU)

島根県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号：70287944

二神 葉子 (FUTAGAMI YOKO)

東京文化財研究所・企画情報部・

情報システム研究室室長

研究者番号：10321556

中村 和之 (NAKAMURA KAZUYUKI)
函館工業高等専門学校・教授
研究者番号：80342434

(3)連携研究者

白石 典之 (SHIRAIISHI NORIYUKI)
新潟大学・超域学術院・教授
研究者番号：40262422
村岡 倫 (MURAOKA HITOSHI)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号：30288633
小野田 俊蔵 (ONODA SHUNZO)
佛教大学・文学部・教授
研究者番号：20131302
バイカル (BAIKAL)
桜美林大学・リベラルアーツ学群・准教授
研究者番号：00434457
山田 誠 (YAMADA MAKOTO)
函館工業高等専門学校・教授
研究者番号：20210479